

医療における  
胎動を探る①

セコム医療システム株式会社

# 日本で、そして世界で『守る』責任を果たすため、 新しい医療のかたちをトータルに推進する。

訪問看護や在宅医療、病院や終の棲家となる老人ホームの経営、さらに電子カルテや遠隔画像診断支援サービスまで、トータルな医療サービスを展開するセコム医療システム。『あらゆる不安のない社会』を目指すセコムグループにあって、最大の財産である『生命』を守る医療の分野を担う同社は、グループの大きな核としてその存在感を高めている。今回は同社が展開する事業の可能性、そしてそこで働く医師のワークスタイルの進化について、代表取締役社長の布施達朗氏に語ってもらった。



代表取締役社長 布施 達朗 氏

1982年 慶應義塾大学商学部卒業。日本警備保障(現セコム株式会社)入社  
1999年 医療事業部企画部長  
2002年 セコム医療システム株式会社取締役  
2009年より現職

医療全般を  
シームレスにつなぎ、  
最大の財産『生命』を守る。

1980年代から民間企業として医療分野に進出。質の高いサービスの提供を目指し、様々な挑戦を続けてきたセコムグループ。その事業を継承するセコム医療システムは、現在医療機関19施設と提携している。

「セコム医療システムが提携する病院は、それぞれが高い専門性を有した病院です。たとえば先進の機器を導入し、循環器系で高い評価を得ている新東京病院、リハビリの分野で注目を集める初台リハビリテーション病院、そして民間としては数少ないドクターヘリを備え、急性期総合医療を目指す手稲溪仁会病院等々、各分野、各地域で大きな信頼を得ています。こうした提携病院を核として、在宅医療や訪問看護、介護施設の運営、IT医療サービス等の事業領域がシームレスにつながり、トータルで安心・安全をカバーするのが、私たちの使命です」

とりわけ提携機関全体の高度なIT化が推進され、ネットワーク化されていることは、大きな強みだと語る布施氏。

「それぞれの患者の電子カルテのデータは、セコムグループが管理する、国内最大規模のセキュアデータセンターに保存されます。これにより、提携するどの医療機関、施設を利用しても、継続的な医療サービスが受けられますし、

ドクターが現地に行くチャンスも増えていきます。活躍の場は世界へと広がっているのです」

「あらゆる不安のない社会」。セコムグループが目指す理念は、ここ、セコム医療システムにおいても、既に世界へとその舞台を広げている。

「もともと医療は、本来、地域のためのものであると思います。しかし、単に地域で一番であればいいかというと、その地域の医療レベルそのものが低かった場合、地域の人々にとってメリットはありません。地域で一番でありながら、同時に世界水準であつてこそ、意味がある。私たちが目指しているのはその責任を果たすことなのです。さらに、アジアを、そして世界全体をひとつの地域とみなし、活動していく。それが日本で医療に携わるものの責任ではないかと考えています」

海外へも進出。  
どの病院でも最先端の  
水準の医療サービス。

さらにセコム医療システムでは、医師が海外で活躍するチャンスが増えているのも注目だ。

「現在、2013年夏に、インド南部のバンガロールで、豊田通商(株)とインドのキルロスカグループとともに、日本で培ったノウハウを活かして、総合病院を開設する予定です。これは日本企業と現地企業が共同運営するものとしてはインド初のものとなります。この情報を知ったドクターの中からは、はやくも『インドで働かせて欲しい』という声も上がっています」

同社における海外事業ということでは、すでに経済連携協定(EPA)に基づき、インドネシアにて奨学金制度を設置、看護師の養成支援を行っている。「まだまだ数は少ないですが、そうして育った看護師が、日本にきて活躍し始めています。これらの人材が、将来地元に戻りたいと思つた際に、帰ることが出来る場をつくってあげたい、そう考えてインドネシア、またフィリピンなどでも病院開設を考えています。こうした大きな流れをつくることで、より優れた海外の人材が、ますます日本に来やすくなるでしょう。日本からも、知識や技術、ノウハウの指導のため、

万が一、大きな災害があつた場合でも、生命に関わる貴重な情報が守られるのです。医療そのもののクオリティをプラスして、こうしたグループ力を活かす、様々な不安を解消できることは、医療グループとしては希有な存在ではないでしょうか。それぞれの機関が専門性を追求しつつ、それらが有機的につながつて、ホリスティックな医療サービスが展開できればと考えています」

医師の  
あらゆるステージが  
用意された環境。

さらに充実した医療サービスを提供するためには、そこで働く医師がいきいきと活動しているかが重要だと布施氏は語る。

「自分の知識や技術を向上させたい、というのはドクターとして当然の欲求でしょう。そうした要望に応え、グループ全体として力を高めていくため、各提携病院を横断して、診療科別の研修会を設けています。現在は消化器系、脳神経外科系、整形運動機能系、循環器系の4つの部門で実施。様々な最先端知識の共有や、多彩な症例の情報交換をしています。グループ内ということもあり、忌憚なく意見交換ができ、各ドクターにとつて貴重な財産を得られる場となっていると思います」

グループの病院に対しては、経営面のサポートだけでなく、こうした交



流を図り、さらにドクターとのコミュニケーションを密にしていきたいと語る布施氏。人事評価委員会も立ち上げて、実績や能力に対しては、きちんと評価するシステムを整備させているという。

「ドクターが納得して、いきいき働いていることは、即、患者にとつてもメリットとなります。また、グループには多彩な専門性がある提携病院が揃つていることは申し上げましたが、さらに急性期に特化した病院や慢性期専門の病院、さらに訪問医療など、ドクターの視点から見た場合、多彩な働き方がある、というのもセコムグループの特徴です。自分のやりたいこと、理想とする働き方に合わせて、選択することも可能となっているのです。より興味のある専門性を持った病院に勤めることもできますし、急性期の病院でバリバリと働いていたが、少し落ち着いて取り組みたいということであれば、慢性期の病院で腰を据えて働くことも可能です。さらに開業支援事業も行っていますので、ワークライフバランスの

セコム医療システム株式会社



主な業務  
訪問介護、有料老人ホーム、  
電子カルテ事業や遠隔画像  
診断支援、訪問看護、病院  
運営支援など。

〒150-0001  
東京都渋谷区神宮前  
1-5-1 セコム本社ビル14階  
担当: 金丸 太一 小泉 忠夫  
TEL 03-5775-8031  
✉ tada-koizumi@secom.co.jp